


<p>第 256 回 都市懇サロン レポ ー ト</p>	<p>都市懇サロン第 256 回 Web 「タクティカル・アーバニズムとデンマークの都市空間」</p>		
<p>講 師</p>	<p>一般社団法人ソトノバ パートナー / 東京 都立大学博士課程 矢野拓洋さん</p>	<p>開催日</p>	<p>令和 3 年 12 月 14 日(火) 18 : 00 ~ 20 : 00</p>
<p>講 師 プロフィール</p>	<p>1988 年生まれ。建築家、研究者としてデンマ ークの建築設計思想と教育、社会制度、文化 の接点を学ぶ。民主主義的設計アプローチで 社会課題を解決する研究を国内外で実践し ている。 主な著書に『タクティカル・アーバニズム』 (『北欧の教育最前線』 2021)。</p>	<p>当日の写真(お話中の様子)</p> 	
<p>お話の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. タクティカル・アーバニズムとは ⇒タクティカル・アーバニズムの概要 漸進的アプローチが生まれる空気感 日本におけるタクティカル・アーバニズムの位置づけ 2. タクティカル・アーバニズムにおける各プレイヤーの役割 ⇒個人、民間組織、行政の 3 者がどのような動きをしていくべきか 理想的な 3 社のコラボレーションの仕方 3. デンマークのタクティカル・アーバニズム ⇒デンマークでタクティカル・アーバニズムが行われた経緯と事例 誰ひとり取り残さない平等社会のための意思決定資本の醸成 4. 資本主義の限界から ⇒都市をつくる新たな原理「幸福主義」について 5. 実際にやってみよう ⇒タクティカル・アーバニズム 10 ステップ 		
<p>意見交換 の概要</p>	<p>○高齢化が進み、プレイヤーとなりえる人が減っている地域でのプレイヤーの見つけ方、呼び込み方を知りたい。 ⇒まずは、自ら行ってみる必要がある。定期的に訪れるなど小さなことから行い繋がりを構築していくことを行うとよい。</p> <p>○国民性の違いではなく、行政が主体となり、賑わい創出のための低未利用地の利活用の事例があれば知りたい。 ⇒対象低未利用地の違った方向性からの分析を行っていくこと、ワークショップ等を活用し、中心となる人を探していくことが大事になってくる。 大学との連携は大学生に頼りきりになるという懸念があるため注意してほしい。</p> <p>○デンマークと日本との違いは何か（国の法律や企業の BCP 取組み） ⇒デンマークの法律は解釈が広く柔軟性があるという特徴がある。</p>		
<p>記録者の ひとこと</p>	<p>タクティカル・アーバニズムは誰でもプレイヤーとなる資格があるからこそ日本では、若者だけでなく高齢者というプレイヤーも巻き込むことで可能性の幅を広げられるのではないかと感じた。</p> <p style="text-align: right;">≪都市懇サロン運営部会 委員 佐藤駿≫</p>		